

## 環境に配慮した物流活動

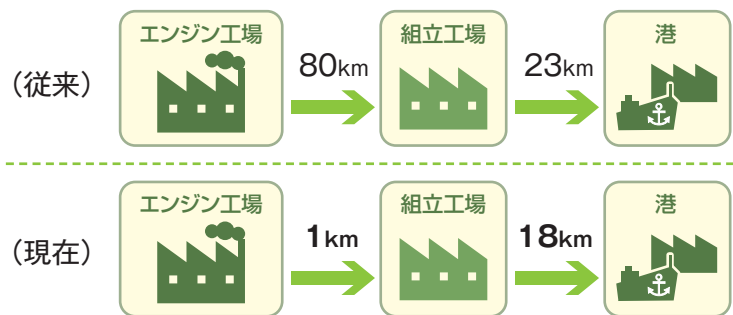
消費者の皆様とスズキをつなぐ物流活動は、環境に関して取り組むべき重要な課題です。スズキはエネルギーの効率的利用や3Rの推進等の改善を通して環境負荷低減に取り組んでいます。

### 01 輸送の効率化・省エネルギー化

スズキでは、2006年4月改正省エネ法施行を機に、社内体制の再整備をこれまで進めてまいりました。輸送の効率化、省エネルギー化をさらに推進しています。

#### 輸送距離の短縮(四輪エンジン・四輪車輸出)

2008年度には、相良エンジン工場に隣接した組立工場を新設、また生産車輛を御前崎港に出荷港を変更することで、従来の輸送距離と比較して大幅に輸送距離を短縮しました。



#### 輸送の効率化(二輪車)

生産から販売店へ届けられる輸送過程において、物流拠点を大消費地に統合しました。また物流拠点から販売店への輸送においては、他社との共同輸送を実施し、輸送の効率化を図っています。



スズキ(株)大阪配車センター(二輪)

#### 輸送距離の短縮(工場への納入部品)

部品を輸入する際、港から倉庫を経由して工場へ納入していましたが、倉庫を順次廃止して工場で保管することにより部品の横持ち※運搬を廃止しています。

また、タイヤの納入についても一部の弊社工場ではタイヤメーカーの工場から直接納入し横持ち運搬を廃止しています。

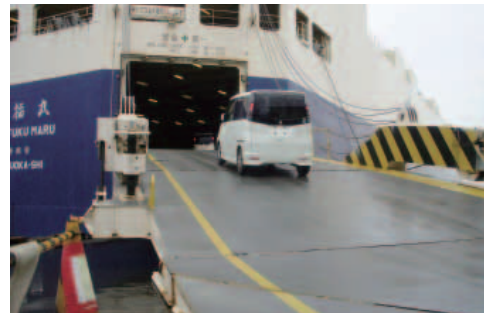
※横持ち:生産用部品を生産と関係のない倉庫に一時保管してから生産工場へ納入する運搬のこと。

## モーダルシフト(四輪車海上輸送の推進)

スズキの国内向け四輪車輸送は、海上輸送と陸上輸送の2つの形態を取っています。

東北以北、中国、四国以西については、海上輸送を推奨しており、CO<sub>2</sub>の排出量削減と経済性を考慮し、現在1/3を超える輸送を海上輸送が占めています。

海上輸送によるCO<sub>2</sub>の排出量はトラック輸送による場合に比べて約1/4と少なく、全てトラックで輸送した場合に比べて約30%のCO<sub>2</sub>排出削減につながっています。



## エコドライブなどの推進

トラック輸送においてエコドライブ推進活動に取り組み、合わせてエコドライブ機器装着車や、アイドリングストップ機器装着車の増車などにより、燃費が向上しています。

スズキ各製品の輸送依頼を受けて販売代理店・販売店様に輸送をしているグループ会社のスズキ輸送梱包(株)では、エコドライブや安全運転の乗務員教育を随時実施して安全の確保と環境保全に努めています。



(開催) スズキ輸送梱包(株)

<http://www.suzukitp.co.jp>

## トピックス

## TOPICS

### 海外工場における物流に関する取り組み

#### ●マルチ・スズキ・インドア社の取り組み

車両の輸送方法を従来のトレーラーによる輸送から、専用の2段式貨物列車によるCO<sub>2</sub>排出の少ない輸送に切替え、2009年7月にゴールデンピーコック(Golden-Peacock)エコ革新賞を受賞しました。

#### ●タイスズキモーター社の取り組み

工場構内でのエンジン搬送トラックに、従来は廃油として売却処分していた完成検査後の実車から回収したガソリンを使用しています。

02 3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進

リユース

●リターナブル容器の利用

部品の国内輸送・搬入に「リターナブル容器」を使用するよう積極的に推進しています。従来はダンボールを使用し国内輸送・搬入をしていましたが、紙の省資源化と作業の効率化を図るため、2003年度よりリターナブル容器の利用を開始しました。

2008年度の状況として出荷用リターナブル容器の使用率は出荷用容器全体の22%で、約121tのダンボールを削減。入荷用リターナブル容器の使用率は入荷用容器全体の51%で、約148tのダンボールを削減しました。



出荷用リターナブル容器



入荷用リターナブル容器

●外装箱のリターナブルラック化の推進

梱包・包装資材の使用量削減のため、現地で廃棄されていたスチールケースのリターナブル化に取り組んでいます。

2008年度は新たにマレーシア、台湾(台鈴工業)に送付を開始しました。既にリターナブルラックを導入している仕向地(ハンガリー、インド、インドネシア、台湾(台湾太子)、パキスタン、アメリカ(SMAC)、中国(長安鈴木)、カナダ(CAMI)を含め、全送付スチールケースの約57%をリターナブルラックにて送付しました。

また、台湾からの輸入二輪車にも2006年よりリターナブルラックを導入しています。現在、中国からの輸入二輪車にもリターナブルラックの導入を検討しています。



リサイクル

●ダンボールの再利用

スズキは工場で発生する廃ダンボールを部品の破損を防ぐための緩衝材に再利用しています。2003年に緩衝材製造機を導入した後、廃ダンボールの再利用を図り、2008年度は約26t/年を再利用しました。



廃ダンボールを再利用した緩衝剤

03 低公害輸送の推進

工場内の物流

工場内の完成車移動と部品運搬のため、スズキはバッテリー式無人牽引車 (AGV) を使用しています。この車両はCO<sub>2</sub>を発生しないこともあり、スズキの各工場で活躍しています。



AGV

補修用バンパーの輸送効率の向上

補修用バンパーの梱包荷姿をダンボールから空気封入資材に変更することで、梱包材の重量を半減し、また部品荷姿の体積は平均約75%に低減できました。

さらに運搬パレットの高さを低くすることで、トラック荷台に2段積みが可能となりました。これにより月当たり大型トラック145台相当の輸送効率の向上を実現しました。

